

# 中学校教育課程研究協議会【国語】

岐阜県教育委員会

日 時 令和4年7月12日(火) 9:00~12:00

開催方法 オンライン会議システム(Webex Meetings)

**【全体主題】**

**「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する各教科等の授業改善**  
～ICT(1人1台端末等)の有効な活用を通して～

## 1 日程

- 8:00～ 9:00 受付(オンライン)
- 9:00～ 9:15 全体会「総則について」
- 9:15～10:00 国語科全体説明
- ① ICTの効果的な活用について
- ② 指導と評価の一体化について
- 10:10～12:00 地区別グループ協議

## 2 全体会・全体説明の接続について

- ・アプリによる接続(Webex Meetingsを使用する場合)  
ミーティング番号 573 966 854
- ・ブラウザによる接続  
URL <https://gon.webex.com/meet/gec-01>

## 3 地区別グループ協議の接続について

| 地区   | アプリ(Webex Meetings)による接続 | ブラウザによる接続   |
|------|--------------------------|---|
| 岐阜地区 | 918 242 330              | <a href="https://gon.webex.com/meet/gec-02">https://gon.webex.com/meet/gec-02</a> |
| 西濃地区 | 166 318 2360             | <a href="https://gon.webex.com/meet/gec-03">https://gon.webex.com/meet/gec-03</a> |
| 美濃地区 | 166 960 3825             | <a href="https://gon.webex.com/meet/gec-04">https://gon.webex.com/meet/gec-04</a> |
| 加茂地区 | 919 406 726              | <a href="https://gon.webex.com/meet/gec-05">https://gon.webex.com/meet/gec-05</a> |
| 東濃地区 | 919 802 138              | <a href="https://gon.webex.com/meet/gec-06">https://gon.webex.com/meet/gec-06</a> |
| 飛騨地区 | 166 824 5622             | <a href="https://gon.webex.com/meet/gec-07">https://gon.webex.com/meet/gec-07</a> |

# 見方・考え方を働かせて資質・能力を育成する

## 1 「見方・考え方」を働かせる

### (2) 改訂の基本方針

#### ③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けや授業改善の推進

オ 深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。

下線担当「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」より

## 2 国語科ならではの物事を捉える視点や考え方「言葉による見方・考え方」

### 第1節 国語科の目標

#### 1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現するし資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」より

言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながることになる。

また、言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、言語活動を通して資質・能力を育成する。言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成しているのは、この考え方を示したものである。

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」より

## 3 「言葉による見方・考え方」を働かせるとは

言葉に注目して、吟味して、言葉への自覚を高めること

|          |   |
|----------|---|
| 対象と言葉    | 対象とは、事物や状態、考えや気持ちなど、事態のあるもののこと。これらと言葉との関係。              |
| 言葉と言葉の関係 | 言葉同士の関係。例えば、類義語や対義語のように意味上で明確な関係があるものや、名前のある関係以外の関係も含む。 |
| 言葉の意味    | 言葉が指し示す意味。  |
| 言葉の働き    | 事物の内容を表す働き、相手とのつながりを作る働きなど。学習指導要領〔知識及び技能〕に指導事項として新設。    |
| 言葉の使い方   | 相手や状況に応じた言葉遣いなど。  |

「着目して捉えたり問い直したりする」とは

例えば、同じ意味を持つ言葉でも、相手や状況に応じて使い分けたり、ある文章を一読した際に捉えた言葉の意味を、再度、文脈に即して捉え直したりすること。

# 国語科における ICT の活用

## 1 中央教育審議会答申より

### 5. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

- ◆ 「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、**ICTは必要不可欠**
- ◆ **これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要**
- ◆ ICTを活用すること自体が目的化しないよう留意し、**PDCAサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行うことが重要**であるとともに、健康面を含め、ICTが児童生徒に与える影響にも留意することが必要
- ◆ ICTの全面的な活用により、学校の組織文化、教師に求められる資質・能力も変わっていく中で、**Society5.0時代にふさわしい学校の実現が必要**

#### (1) 学校教育の質の向上に向けたICTの活用

- カリキュラム・マネジメントを充実させ、各教科等で育成を目指す資質・能力等を把握した上で、ICTを「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かすとともに、従来は伸ばせなかった資質・能力の育成や、これまでできなかった学習活動の実施、家庭等学校外での学びの充実
- 端末の活用を「当たり前」のこととし、児童生徒自身がICTを自由な発想で活用するための環境整備、授業デザイン
- ICTの特性を最大限活用した、不登校や病気療養等により特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな支援、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会の提供等
- ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備を両輪とした、個別最適な学びと協働的な学びの実現

#### (2) ICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上

- 養成・研修全体を通じ、教師に必要な資質・能力を身に付けられる環境の実現
- 養成段階において、学生の1人1台端末を前提とした教育を実現しつつ、ICT活用指導力の養成やデータリテラシーの向上に向けた教育の充実
- ICTを効果的に活用した指導ノウハウの迅速な収集・分析、新時代に対応した教員養成モデルの構築等、教員養成大学・学部、教職大学院のリーダーシップによるSociety5.0時代の教員養成の実現
- 国によるコンテンツ提供や都道府県等における研修の充実等による現職教師のICT活用指導力の向上、授業改善に取り組む教師のネットワーク化

#### (3) ICT環境整備の在り方

- GIGAスクール構想により配備される1人1台の端末は、クラウドの活用を前提としたものであるため、高速大容量ネットワークを整備し、教育情報セキュリティポリシー等でクラウドの活用を禁止せず、必要なセキュリティ対策を講じた上で活用を促進
- 義務教育段階のみならず、多様な実態を踏まえ、高等学校段階においても1人1台端末環境を実現するとともに、端末の更新に向けて丁寧に検討
- 各学校段階において端末の家庭への持ち帰りを可能とする
- デジタル教科書・教材等の普及促進や、教育データを蓄積・分析・利活用できる環境整備、ICT人材の確保、ICTによる校務効率化

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して【概要】(令和3年1月26日 中央教育審議会答申)より

### 5. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた ICT の活用に関する基本的な考え方

○ICTが必要不可欠なツールであるということは、社会構造の変化に対応した教育の質の向上という文脈に位置付けられる。すなわち、子どもたちの多様化が進む中で、個別最適な学びを実現する必要があること、情報化が加速度的に進む Society5.0 時代に向けて、情報活用能力など学習の基盤となる資質・能力を育む必要があること、少子高齢化、人口減少という我が国の人口構造の変化の中で、地理的要因や地域事情に関わらず学校教育の質を保証すること、災害や感染症等の発生などの緊急時も教育活動の継続を可能とすること、教師の長時間勤務を解消し学校の働き方改革を実現することなど、これら全ての ICT の課題に対し、**ICTの活用は極めて大きな役割を果たし得るものである。**

下線担当「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して 第1部 総論(令和3年1月26日 中央教育審議会答申)」より

## 2 学習指導要領における ICT 活用に関する記述

### 「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」2

#### ○ 情報機器の活用に関する事項

(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童(生徒)がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。

「小(中)学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」より

### 第3章 各学年の内容

#### 2 第5学年及び第6学年の内容 【思考力、判断力、表現力等】

##### A 話すこと・聞くこと(1)

ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」より

## 第3章 各学年の内容

## 2 第2学年の内容〔思考力、判断力、表現力等〕

## A 話すこと・聞くこと(1)

ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

## B 書くこと(2)

イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。

## C 読むこと(2)

ウ 本やインターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする活動。

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」より

## 3 国語科における ICT 活用の現状

## これまでの国語科における ICT の活用

小学校学習指導要領解説 国語編(平成20年8月)

第5学年及び第6学年「A 話すこと・聞くこと」(2)

ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりする言語活動。

中学校学習指導要領解説 国語編(平成20年9月)

第2学年「A 話すこと・聞くこと」(1)

ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。

これまでの授業において、ICT の活用については、すでに豊富な実践がある。

- ・自分が伝えたいことについて、インターネットを使って調べ、ノートにメモをする。
- ・モデルとなる動画を視聴し、工夫点を見付ける。(デジタル教科書やDVD等の活用)
- ・グループで1台の端末等を活用して、資料を提示しながらプレゼンテーションを行う。
- ・スピーチを録音して、速さや間、強弱、抑揚などを確かめる。
- ・全体や一部の様子をビデオカメラ等で撮影して、全員で視聴する。

## 4 ICT を活用することにより可能となること

国語科の授業において、ICT を活用することにより、今までやりたくてもできなかった、どのような学習活動や指導が可能となるか。

<ICT を活用することで可能となることとは?>

キーワード

## 5 資質・能力を効果的に育成する ICT の活用

どんな場で、どのように ICT を活用すると、身に付けさせたい資質・能力をより効果的に育成できるか。

〔思考力・判断力，表現力等〕 A 話すこと・聞くこと

第2学年 「魅力的な提案をしよう」 第3時

【育成を目指す資質・能力】

A 話すこと・聞くこと

ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

【本時のねらい】 3/4時

プレゼン動画作成や交流を通して言葉の使い方や資料の提示の仕方によって伝えたいことが分かりやすく伝わることに気付き、プレゼン動画を練り直すことができる。

**学習過程**

〇〇市を初めて訪れる方に、〇〇市の魅力を伝えるプレゼン動画を作成する。

① 学習の目的や相手を確認し、学習の見通しをもつ

② 相手や目的を意識してプレゼン動画を作成する

③ 全体で交流し、よい点や改善点を考える

④ 視点や助言を基にプレゼン動画を練り直す

①～④のどの場で ICT を活用すると、身に付けさせたい資質・能力をより効果的に育成できるか。

<メモ>

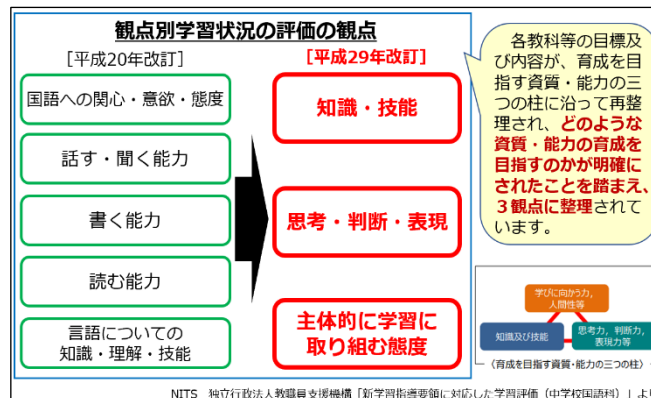
# 指導と評価の一体化

## 1 学習評価の充実

### ②育成を目指す資質・能力の明確化

今回の改訂では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むために「何のために学ぶのか」という各教科を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるようにするため、すべての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」より



これまでの自身の評価を振り返ってみましょう。

- 「評価を記録に残す」場面が、単元の終末段階のみになっていないか。
- 授業中の挙手や、漢字、ワーク等への取組、ノートの提出率等で、「主体的に学習に取り組む態度」を評価していないか。
- 定期テストの得点分布のみで観点別学習状況の評価を行っていないか。
- あらかじめ「十分満足できる」状況と判断されるもの「A」の人数を定めて評価していないか。
- 評価規準となる具体的な姿が曖昧になっていないか。

### 学習評価の基本的な考え方

- ・児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと。
- ・教師の指導改善につながるものにしていくこと。
- ・これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと。

学習指導要領解説に「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す」とあるように、学習評価の対象となるのは、「資質・能力」が育成されたかどうかである。

## 2 学習評価の充実

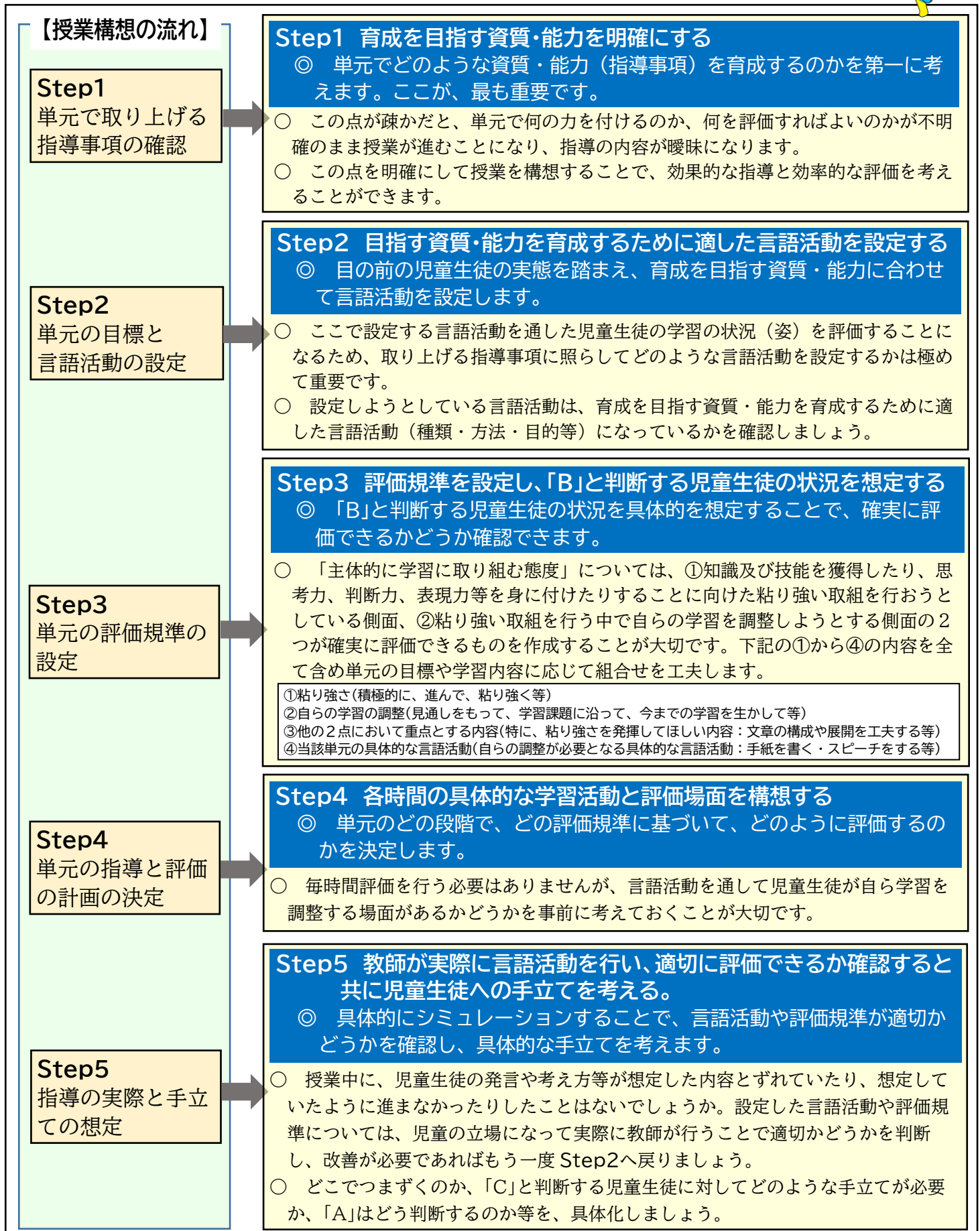
### (1) 指導の評価と改善（第1章第3の2の(1)）

- (1) 児童（生徒）のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

「小（中）学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」より



## 2 指導と評価の一体化 ～国語科の授業改善を進めるにあたっての学習指導と評価のポイント～ 学習指導と評価のポイント(授業づくりの視点から)



## 3 参考資料（事例紹介）

|  |   |
|--|---|
| 単元名<br>魅力的な提案をしよう<br>～魅力が伝わるプレゼンをする～<br>第2学年 A 話すこと・聞くこと | 内容のまとめり<br>第2学年<br>【知識及び技能】(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項<br>【思考力、判断力、表現力等】「A 話すこと・聞くこと」 |
|--|---|

## 1 単元の目標

- (1) 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くことができる。  
 [知識及び技能] (1) ア
- (2) 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。  
 [思考力、判断力、表現力等] A (1) イ
- (3) 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。  
 [思考力、判断力、表現力等] A (1) ウ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に  
 して、思いや考えを伝え合おうとする。  
 「学びに向かう力、人間性等」

## 2 本単元における言語活動

〇〇市の魅力が伝わるプレゼン動画を作成する。

(関連：[思考力、判断力、表現力等] A (2) ア)

## 3 単元の評価規準

| 知識・技能                          | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度                                  |
|--------------------------------|--|--|
| ① 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付いている。 | ① 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A (1) イ)<br>② 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。(A (1) ウ) | 粘り強く表現の仕方を工夫し、学習課題に沿って、魅力が伝わるようにプレゼンをしようとしている。 |

## 4 指導と評価の計画（5時間）

|        | 主たる学習活動   | 評価する内容   | 評価方法                   |
|--------|---|--|------------------------|
| 1      | ・ 〇〇市の魅力を伝えるための内容を決め、情報を集める。                                  | [思考・判断・表現] A(1)アに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としていないことから、本単元の評価には含めない。 |                        |
| 2      | ・ 効果的な話の構成を考える。   | [思考・判断・表現] ①   | 構成表                    |
| 3      | ・ プレゼンテーションを作成する。   | [思考・判断・表現] ②   | プレゼン動画                 |
| 4<br>5 | ・ プレゼンを作成し、繰り返し視聴してよりよいプレゼンにする。<br>・ 互いのプレゼンを聞き合い、質問や助言などをする。 | [思考・判断・表現] ②<br>[知識・技能] ①<br>[主体的に学習に取り組む態度]                     | プレゼン動画<br>助言コメント<br>観察 |



## 5 観点別学習状況の評価

### (1) [知識・技能] の評価

**キーワード：「聞き手の行動を促す表現になっているか」という視点で練り直す。**

プレゼン動画を視点に沿って見直し、再度作成後、視聴・録画を繰り返してよりよいものにする学習活動の中で評価する。その際、作成したものをその都度提出箱に提出する。仲間の作品も自由に視聴できるようにし、コメントを書き込んだり、参考にしたりする。

「おおむね満足できる (B)」状況を、生徒の姿とプレゼン動画をもとに、次の観点で評価する。

- ・ 「聞き手に働きかけ、行動するように促す表現になっているか」という視点で自分や仲間のプレゼン動画を視聴し、仲間に助言したり自分の表現をよりよいものにしようと繰り返し録画したりしている。(観察・プレゼン動画の提出状況)

### (2) [思考・判断・表現] の評価

**キーワード①：伝えたい魅力が伝わるように中心となる事柄や提示資料を絞る。**

①については、第1時で収集した情報を整理しながら、限られた時間の中で、自分の伝えたいことを明確にし、それが伝わるように提示資料を絞り込んでいくことを評価する。その際、「相手の立場に立って考えること」、「目的に応じて考えること」を、構成を考える視点とし、いくつかプランを立ててどれがよいかを考えたり、完成したものを見直して練り直したりすることを大切にしたい。その際、一度考えたプランは保存させ、練り直したものは上書きしないで、保存させる。

「おおむね満足できる (B)」状況を、構成表をもとに、次の2つの観点で評価する。

- ・ 相手や目的を意識して、時間内に伝えたい魅力が伝わるように中心となる事柄や提示資料を絞っている。(構成表)
- ・ 聞き手の立場に立って構成を練り直している。(構成表)

**キーワード②：相手や目的に応じて資料の効果や話し方を考えてプレゼン動画を作成する。**

②については、構成表をもとに実際にプレゼン動画を作る中で、相手や目的に応じて、資料の効果や話し方を考えて作成することの中で評価する。一度作成したプレゼン動画は、提出箱に提出し、仲間の作品も自由に視聴できるようにすることで、仲間のよさを学んだり、互いに助言(コメントに入力)し合ったりして、自分のプレゼン動画を再度修正していく。新たに手を加えたプレゼン動画は、上書きしないで提出させ、修正前と修正後の変化を確認する。生徒自身にも、前に作成したものと比較させ、学びを自覚できるようにする。

「おおむね満足できる (B)」状況を、提出したプレゼン動画をもとに、次の観点で評価する。

- ・ 相手や目的に応じて資料の効果や話し方を考えてプレゼン動画を作成し、繰り返し視聴、録画をしてよりよいものに行っている。(プレゼン動画)

### (3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

**キーワード：より魅力が伝わるようにしようと繰り返しプレゼン動画を作成する。**

本単元では、「粘り強く表現の仕方を工夫し、学習課題に沿って、魅力が伝わるようにプレゼンをしようとしている。」を評価規準としている。毎時間の生徒の姿の観察や振り返りの記述を蓄積しながら、第4時・5時で実際に評価する。

「おおむね満足できる (B)」状況を、生徒の姿の観察と振り返りの記述内容で評価する。

- ・ より魅力が伝わるプレゼンにしようと、自分や仲間の動画を視聴し、助言を参考にしたり、改善点を見付けたりして繰り返し練習している。(観察)
- ・ 振り返りの記述に、助言や見付けた改善点をどう活用したかを書いている。(振り返り)

## 5 本時について

## 本時のねらい

作成したプレゼン動画を繰り返し視聴したり、仲間と助言し合ったりする活動を通して、言葉の使い方や資料の提示の仕方によって伝えたいことが分かりやすく伝わることに気づき、プレゼン動画を練り直すことができる。〔思考力、判断力、表現力〕A(1)ウ

## 本時の評価規準

言葉の使い方や資料の提示の仕方を検討して、プレゼン動画を練り直している。

〔思考力、判断力、表現力〕A(1)ウ

## 本時の展開 (4/5時)

| 主な学習活動  | 指導の留意点・評価   |
|---|---|
| <p>1 学習の目的や提示する相手を確認する。</p> <p>相手：〇〇市を訪れたことのない人<br/>目的：「行ってみたい」「見てみたい」「食べてみたい」などと思つて〇〇市を訪れてもらえるように、魅力を伝える。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語活動の相手や目的を確認することで、自分が作成したプレゼン動画がそれに応じたものになっているか見直すことができるようにする。</li> </ul>   |
| <p>2 本時の課題を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>作成したプレゼン動画を繰り返し視聴したり、仲間と助言し合ったりして、より魅力が伝わるプレゼン動画を作成しよう。</p>  |   |
| <p>3 相手や目的を意識してプレゼン動画を視聴し、練り直す。</p> <p>① 相手や目的に応じて、自分のプレゼン動画を視聴する。<br/>② 動画を提出箱に保存し、仲間のプレゼン動画を視聴してコメントを書く。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレゼン動画の作成は、ヘッドフォンをして行う。</li> <li>・ 視点に沿って、自分の作成したプレゼン動画を視聴し、再度録画して提出箱に提出させる。</li> <li>・ 仲間のプレゼン動画を自由に視聴できるようにし、視聴した際にはコメントを書き込むよう指示を出す。</li> <li>・ よいと感じた理由を交流させることで、言葉の使い方や表現の仕方によって、言葉には相手の行動を促す働きがあることに気付いたり、写真以外にも効果的な資料提示の仕方があることに気付いたりできるようにする。</li> </ul> |
| <p>4 中間交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 〇〇という言い方をすると、行ってみたいと感じる。</li> <li>・ ◇◇という言葉は、見てみたいと感じる言葉だ。</li> <li>・ 表現の仕方や言葉の使い方で見聞き手の感じ方は違う。</li> <li>・ 場所の写真だけでなく、地図や交通手段、時間や金額もあると、分かりやすい。</li> <li>・ その場所にある□□を表にしたり、アンケート結果を示したりすると、～がより分かりやすく伝わる。</li> </ul> |   |
| <p>5 視点をもとに、再度自分のプレゼン動画を視聴し、助言等を参考にしながら練り直す。</p> <p>視点： 活用した資料や表現は、聞き手に働きかけ、行動するよう促す表現になっているか</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視点に沿ってプレゼン動画を視聴させ、改善点を見つけて、再提出するように指示を出す。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 呼びかけの表現、敬語の使い方などを見直す。</li> <li>・ 必要に応じて活用する資料を追加・変更したりする。</li> <li>・ 提出したプレゼン動画を視聴し合い、「行ってみたい」「見てみたい」「食べてみたい」などと思うかどうかをアンケート形式で回答したり、互いに助言し合ったりする。</li> </ul>  |   |
| <p>6 助言等をもとにプレゼンを完成させる。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 互いのプレゼン動画を視聴しコメントしたり、簡単なアンケートを活用して回答できるように設定しておく。</li> </ul>   |
| <p>7 本時を振り返り、学びを実感する。</p> <p>はじめは、魅力を伝えるために場所の写真を示して紹介を中心に作成していたけれど、視聴する人に働きかけるように「～と思いませんか」と呼びかけたり、「何と云っても一番の魅力は」という言葉を使ったり、写真と実際に行った人の感想を付け加えたりすることで、視聴する人が「行ってみたい」と思えるようなプレゼン動画になった。何度も録画して視聴することで、改善点も見付けられたしよりよいものができた。</p>  |   |